

講義科目名称： 福祉倫理特論

授業コード：

英文科目名称： 一

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分																														
前期	1	2	必修																														
担当教員																																	
鈴木 利定																																	
添付ファイル																																	
学修目標	倫理は人の生活に深くかかわる。昔の先賢は誠をして天の条理に位置づけ、人の目標とさせている。宋・明の学者は哲学の領域・理気説に昇化せしめている。 要するに社会に生きるには技術、知識、人格を支えるに誠(良知)が根元であることを知らしめているのである。本講義はそのことに気づかせ、仕事を通して吾が身体の力行を重んずる人を育てるこを主眼とする。																																
講義の内容（基本的枠組）	対象者への人間尊重、人間尊厳は社会福祉に携わる人の目標である。それには我が身心を律することが先務である。而して余姚学は心の本体・身体の力行を説いて、簡にして細微である。戦後60年の今日、善惡の行為を判断もつけられない人が溢れかかっているようである。憂慮に堪えない。社会福祉及び看護にかかわる人はそのようなことであってはならない。私は多年の研究論文、著書、講演等の要旨をもとに身心の鍛成、人格涵養の大切なことを受講生に講じてゆくものである。																																
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td><td>オリエンテーション 講義内容の説明</td></tr> <tr> <td>第 2 回</td><td>当校、伝統の建学精神 当校の礎と学統</td></tr> <tr> <td>第 3 回</td><td>当校、伝統の建学精神 提言字の解義</td></tr> <tr> <td>第 4 回</td><td>当校、伝統の建学精神 現代的意義</td></tr> <tr> <td>第 5 回</td><td>当校の教育理念 理気説の提言(1)</td></tr> <tr> <td>第 6 回</td><td>当校の教育理念 理気一元説の導入(2)</td></tr> <tr> <td>第 7 回</td><td>当校の教育理念 提言字の本義</td></tr> <tr> <td>第 8 回</td><td>当校の教育理念 現代的意義</td></tr> <tr> <td>第 9 回</td><td>儒教倫理 特色</td></tr> <tr> <td>第 10 回</td><td>儒教倫理(1) 特性(1)</td></tr> <tr> <td>第 11 回</td><td>儒教倫理(2) 特性(2)</td></tr> <tr> <td>第 12 回</td><td>家庭生活と倫理の発現 倫理思想の体認</td></tr> <tr> <td>第 13 回</td><td>家庭生活と倫理の発現 倫理思想の体認</td></tr> <tr> <td>第 14 回</td><td>社会生活と倫理の発現 同上及び建学精神、教育理念の体認</td></tr> <tr> <td>第 15 回</td><td>職業と人生(就業規則と職業倫理を含む) 当校、諸学部諸学科の顕彰</td></tr> </table>			第 1 回	オリエンテーション 講義内容の説明	第 2 回	当校、伝統の建学精神 当校の礎と学統	第 3 回	当校、伝統の建学精神 提言字の解義	第 4 回	当校、伝統の建学精神 現代的意義	第 5 回	当校の教育理念 理気説の提言(1)	第 6 回	当校の教育理念 理気一元説の導入(2)	第 7 回	当校の教育理念 提言字の本義	第 8 回	当校の教育理念 現代的意義	第 9 回	儒教倫理 特色	第 10 回	儒教倫理(1) 特性(1)	第 11 回	儒教倫理(2) 特性(2)	第 12 回	家庭生活と倫理の発現 倫理思想の体認	第 13 回	家庭生活と倫理の発現 倫理思想の体認	第 14 回	社会生活と倫理の発現 同上及び建学精神、教育理念の体認	第 15 回	職業と人生(就業規則と職業倫理を含む) 当校、諸学部諸学科の顕彰
第 1 回	オリエンテーション 講義内容の説明																																
第 2 回	当校、伝統の建学精神 当校の礎と学統																																
第 3 回	当校、伝統の建学精神 提言字の解義																																
第 4 回	当校、伝統の建学精神 現代的意義																																
第 5 回	当校の教育理念 理気説の提言(1)																																
第 6 回	当校の教育理念 理気一元説の導入(2)																																
第 7 回	当校の教育理念 提言字の本義																																
第 8 回	当校の教育理念 現代的意義																																
第 9 回	儒教倫理 特色																																
第 10 回	儒教倫理(1) 特性(1)																																
第 11 回	儒教倫理(2) 特性(2)																																
第 12 回	家庭生活と倫理の発現 倫理思想の体認																																
第 13 回	家庭生活と倫理の発現 倫理思想の体認																																
第 14 回	社会生活と倫理の発現 同上及び建学精神、教育理念の体認																																
第 15 回	職業と人生(就業規則と職業倫理を含む) 当校、諸学部諸学科の顕彰																																
受講生への要望	仕事を含んで日常の生活に深くかかわるものが倫理である。時代への新しき創造、真知について深く学び、体認して頂くことを受講生の皆様へ要望するものであります。																																
評価方法	授業でのコメントは20点、期末筆答試験は40点、レポートは40点、総合点100点満点となります。																																
テキスト・参考書	【テキスト】 咸有一徳・・・昌賢学園の全人教育 鈴木利定・中田勝 著 【参考書】 隨時指示																																

講義科目名称：社会福祉原理特論

授業コード：

英文科目名称：—

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
笹澤 武			
添付ファイル			

学修目標	社会福祉学の基底としての人間形成、完成の条件を学び、社会福祉の理念を理解したい。 同時に自らの研究計画とも関連させつつ学修して行く。
講義の内容（基本的枠組）	社会福祉の用語についての変遷は、その本質的な意味との関係があること、つまり、社会、経済との関連がある点であることを知り、幅広く国民生活に関わる形で理解を進めて行く。
授業計画	第1回 授業計画、参考文献、資料収集 第2回 社会福祉の用語変遷(福祉概念の発展) 第3回 社会福祉の基本前提(生物、文化社会的面) 第4回 (人間存在としての生など) 第5回 (現代社会福祉理念の諸問題) 第6回 (個の確立) 第7回 (国家福祉の理念) 第8回 (人間的理念:人権、個人の尊厳、生命の尊厳) 第9回 (人間的理念:平等の理念、自由の理念、自立の理念) 第10回 (愛他理念:理念と展開) 第11回 社会保障、社会福祉の理念をさぐる 第12回 20、21世紀の福祉理念 第13回 わが国の憲法の示す福祉理念 第14回 行政の示す社会福祉 第15回 講義のふりかえり
受講生への要望	文献を読み意見を述べ合って、学問を自らのものにして欲しい。
評価方法	発表(30%)・レポート提出(70%)等を総合的に評価する。
テキスト・参考書	【参考文献】 「社会福祉の発見」あいり出版 「生命倫理」弘文堂 その他

講義科目名称：社会福祉理論・学説史研究

授業コード：

英文科目名称：—

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
笹澤 武			
添付ファイル			

学修目標	わが国の社会福祉の理論と人間らしく生きることと対比して考究したい。
講義の内容（基本的枠組）	絆の言葉が使われている昨今を別の角度から肯定的、批判的に考えてゆくため、若干の学説も取り上げる。 その考え方の背景に人間らしく生きるために思想(考え方)や実践を取り上げてみる。
授業計画	第1回 授業のためのオリエンテーション 第2回 社会福祉の基礎理論 第3回 日本における社会福祉の歴史的展開 第4回 欧米における社会福祉の歴史的展開 第5回 社会福祉の援助対象と福祉ニーズ 第6回 社会福祉援助の方法と過程や組織運営 第7回 公共にとっての社会福祉学とは 第8回 社会福祉の担い手と専門職制度 第9回 戦前・戦後社会福祉の展開と主な福祉改革(1) 第10回 戦前・戦後社会福祉の展開と主な福祉改革(2) 第11回 社会福祉の国際的動向 第12回 司社会福祉とグローバリゼーション 第13回 社会福祉の供給体制 第14回 21世紀社会福祉の展望 第15回 講義のふりかえり
受講生への要望	文献を読み意見を述べ合って、学聞を自らのものにして欲しい。
評価方法	発表(30%)・レポート提出(70%)で総合的に評価する。
テキスト・参考書	【参考書】 国代国次郎「社会福祉学とは何か」本の泉社 杉本一義「人生福祉」駿河台出版社

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
松原 直樹			
添付ファイル			

学修目標	1. 社会福祉の組織の経営に関する基礎知識を理解し、またその特殊性を理解する。 2. 社会福祉サービスを提供するための財源と社会福祉サービス組織の財務管理を理解する。 3. 社会福祉サービス組織の経営において必要な人事・労務・安全等に関する管理を理解する。 4. 社会福祉サービス管理・改善等の実践を理解し、所属組織のサービス管理方法の改善課題を把握する。
講義の内容（基本的枠組）	社会福祉サービスには、近年、多様なサービス提供主体が参入してきている。その中心となる社会福祉法人は、高い公益性を備えながらも、「経営基盤の強化」「その提供する福祉サービスの質の向上」及び「事業経営の透明性の確保」が法的に求められている。本講座では、まず社会福祉経営・管理の考え方、基礎理論及び沿革を取り上げ、また社会福祉事業に関する行財政制度について取り上げ、特に社会福祉法人制度について、検討を行う。その上で、福祉サービスの経営管理方法として、サービス管理、人事管理・労務管理、財務管理、安全管理、情報管理、危機管理等について、具体的に検討する。こうした学修により組織の意思決定や経営について深く理解した上で、サービス管理業務の課題を見発する。
授業計画	第1回 オリエンテーション、社会福祉と経営 本講義の位置づけと全体像について、理解する。社会福祉と経営について、社会福祉経営の特徴について、概観した後、「福祉経営論」という学問領域について、概要を理解する。さらに、社会福祉経営論の学修範囲について、理解する。 第2回 福祉サービスの経営主体 福祉サービスの提供主体に関する最新の統計により、現状を理解する。その上で、福祉サービスの具体的な提供主体である、国・地方公共団体、社会福祉法人、医療法人、社団・財団法人、協同組合、営利法人および特定非営利活動法人(NPO)について、その概要と福祉サービスにおける役割を理解する。 第3回 社会福祉経営・管理の基礎理論①組織、管理(1) 現代社会における組織に関する基本的知識・理論を理解する。また、社会福祉サービスに関する組織についての理論を理解する。その上で、現代における社会福祉組織の課題を検討する。次に、現代社会における組織の管理・運営に関する基本的知識を理解する。 第4回 社会福祉経営・管理の基礎理論②管理(2)、集団力学・リーダーシップ テーラー、ファヨールに代表される経営管理論について、その概要を理解する。その上で、社会福祉組織の管理について、課題を検討する。次に、集団に働く力に関する基礎理論を理解する。さらに、集団を導くリーダーシップに関する基礎理論を理解する。 第5回 社会福祉サービスに関する行財政制度 社会福祉サービスに係る行政のしくみとして、国及び地方自治体の具体的な行政組織について理解する。また、社会福祉サービスに関する財政制度について、社会保障財政、国家予算、地方予算、および一般会計・特別会計等の具体的な仕組みを理解する。 第6回 社会福祉経営と介護保険制度 介護保険制度の概要及び近年の介護保険制度改革について理解する。その上で、さまざまな社会福祉サービスの主体における介護保険との関わりについて、業務内容および経営面から理解する。 第7回 社会福祉サービスの人事・労務管理 福祉サービスにおける人事管理について理解する。具体的には、人事管理の方法として、採用、ジョブローテーション、人事考課、能力開発、メンタルヘルス・マネジメント等について、理解する。次に、福祉サービスにおける労務管理について理解する。具体的には、労務管理の内容、労務管理の優先順位および労務管理において遵守すべき法令について理解する。 第8回 社会福祉サービスの管理【研修①】 社会福祉サービスの管理に関するこれまでの学習内容を再度確認した上で、サービス管理において、理解しておく必要のある、これまで学習していない事がらについて、概要を理解する。 第9回 社会福祉サービスと法人【研修②】 第2回で学修した社会福祉サービスの主体の組織について、社会福祉法人を中心に、法人の形態、設立と組織体制について具体的に理解する。 第10回 会議運営(演習)【研修③】 会議運営について基本的事項を理解した上で、配布する会議マネジメントのチェックリストに基づいて、具体的な組織における会議マネジメントの課題をグループで討議する。 第11回 福祉サービスの評価・管理(演習)【研修④】 福祉サービスの評価・管理に関する基本的事項を理解した上で、配布するサービス評価・管理のチェックリストに基づいて、具体的な組織におけるサービスの課題をグループで討議する。 第12回 福祉サービス第三者評価(講義)【研修⑤】 「福祉サービスにおける第三者評価事業に関する報告書」や「福祉サービスの第三者評価事業に関する指針について」に沿って、福祉サービス第三者評価の流れを理解し、また福祉サービスの第三者評価基準について理解する。 第13回 福祉サービスの苦情解決の方法(演習)【研修⑥】

	<p>リスクマネジメントとその取組について、「福祉サービスにおける危機管理(リスクマネジメント)に関する取り組み指針」に沿って理解し、さらに苦情受付業務の流れを理解する。その後具体的なリスクマネジメントガイドラインを題材として、理解する。</p> <p>第14回 緊急介入事案への対処方法（1）（演習）【研修⑦】 社会福祉サービスの財務管理の概要及び社会福祉法人の会計基準についての概要を理解した後、事例を使って財務分析を行う。さらに、モラールサーベイ・チェックについて、事例に基づいて理解する。</p> <p>第15回 緊急介入事案への対処方法（2）（演習）【研修⑧】 社会福祉サービスの主体の経営に関する現状を分析するため、SWOT分析について、分析方法の概要を理解した後、具体的な事例に基づいて理解する。</p>
受講生への要望	「福祉サービスの組織と経営」について、すでにある程度学修していることを想定して授業を進めています。修士論文の作成を念頭に置いたうえで、参考文献を事前及び事後に検討するなど、主体的に授業に参加することを望みます。
評価方法	レポート50%、受講状況・姿勢50%
テキスト・参考書	<p>【テキスト】使用しない予定。基本教材としてプリントを配布する。 【参考書】 宇山勝儀・小林理 編著『社会福祉事業経営論』（光生館） 『新・社会福祉士養成講座11 福祉サービスの組織と経営』（中央法規） 『社会福祉士シリーズ11 福祉サービスの組織と経営』（弘文堂） 『社会福祉士経営管理論2019』（全社協）</p>

講義科目名称：社会福祉法制特論

授業コード：

英文科目名称：—

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択
担当教員			
高野 芳久			
添付ファイル			

学修目標	福祉サービス、社会保障の基礎となる法制度の理解と、利用者等の権利侵害の防止、権利の回復の方法・手段を実践的に研修する。																														
講義の内容（基本的枠組）	1) 社会福祉に関する法制度につき説明できる。 2) 利用者等の権利侵害の防止、権利の回復の方法・手段について説明できる。																														
授業計画	<table> <tr> <td>第 1 回</td> <td>権利擁護概説(権利・社会正義・倫理を含む)</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>憲法と人権保障</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>意思能力・行為能力・意思表示</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>契約(消費者保護制度を含む)</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>成年後見制度</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>婚姻(DV防止法を含む)</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>親子・親権(児童虐待防止法を含む)</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>扶養(高齢者虐待防止法を含む)</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>行政活動</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>行政救済</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>社会福祉法制概説</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>社会福祉法制に関する判例研究Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>社会福祉法制に関する判例研究Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>成年後見制度に関する判例研究Ⅲ</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>成年後見制度に関する判例研究Ⅳ</td> </tr> </table>	第 1 回	権利擁護概説(権利・社会正義・倫理を含む)	第 2 回	憲法と人権保障	第 3 回	意思能力・行為能力・意思表示	第 4 回	契約(消費者保護制度を含む)	第 5 回	成年後見制度	第 6 回	婚姻(DV防止法を含む)	第 7 回	親子・親権(児童虐待防止法を含む)	第 8 回	扶養(高齢者虐待防止法を含む)	第 9 回	行政活動	第 10 回	行政救済	第 11 回	社会福祉法制概説	第 12 回	社会福祉法制に関する判例研究Ⅰ	第 13 回	社会福祉法制に関する判例研究Ⅱ	第 14 回	成年後見制度に関する判例研究Ⅲ	第 15 回	成年後見制度に関する判例研究Ⅳ
第 1 回	権利擁護概説(権利・社会正義・倫理を含む)																														
第 2 回	憲法と人権保障																														
第 3 回	意思能力・行為能力・意思表示																														
第 4 回	契約(消費者保護制度を含む)																														
第 5 回	成年後見制度																														
第 6 回	婚姻(DV防止法を含む)																														
第 7 回	親子・親権(児童虐待防止法を含む)																														
第 8 回	扶養(高齢者虐待防止法を含む)																														
第 9 回	行政活動																														
第 10 回	行政救済																														
第 11 回	社会福祉法制概説																														
第 12 回	社会福祉法制に関する判例研究Ⅰ																														
第 13 回	社会福祉法制に関する判例研究Ⅱ																														
第 14 回	成年後見制度に関する判例研究Ⅲ																														
第 15 回	成年後見制度に関する判例研究Ⅳ																														
受講生への要望	教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。 また、別掲の参考書での学習も、お勧めします。授業には演習も含まれるので、討議にも積極的に参加すること。																														
評価方法	①レポート・試験60% ②発表40%																														
テキスト・参考書	<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇山勝儀・森長秀 編著 「社会福祉を志す人のための法学」光生館, 2011年 ・宇山勝儀・船水浩行 編著 「社会福祉行政論」ミネルヴァ書房, 2010年 ・「社会福祉六法」(最新のもの) 新日本法規 <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義時にその都度説明する。 																														

講義科目名称：高齢者福祉特論

授業コード：

英文科目名称：—

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1, 2年	2	選択
担当教員			
山口 智晴			
添付ファイル			

学修目標	高齢者の生活の安定、安心、生きがいなどを支援するための理論と実践について、理解を深める。 具体的には、わが国における社会構造の変化とそれに対応する施策制度の変遷、これからの中長期的な社会政策のあり方について、各回で設けられたテーマを基に理解を深め、今後の実践や研究に生かすことができるこことを目指す。 また、本科目を通して高齢福祉療育での研究アイディアを育む力を養うことを目指す。		
講義の内容（基本的枠組）	わが国では、長寿を手に入れたが、果たしてその最終ステージは豊かなものなのだろうか。高齢者福祉特論では高齢者福祉について、現代社会の法体系、制度、施策などを学ぶとともに、それらの基本的理念と生活の現実の関係を理解する。そして、事例などによって、理念や法などが現実の生活にどのように活かされているのか、また、その課題について理解を深めていく。		
授業計画	第1回	科目オリエンテーション・高齢期の課題について 【key words】 オリエンテーション 【授業概要】 科目的オリエンテーションを行う。 また、高齢期の課題について議論を通して理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①P. 4~7 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書指摘範囲の熟読 【予習復習に必要な想定時間】 60分	
	第2回	人生における高齢期 【key words】 ライフステージにおける高齢期 【授業概要】 高齢期における心身の変化・家計の変化・生活不安について、テーマを基に討議を通して理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①P. 8~20 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書指摘範囲の熟読 【予習復習に必要な想定時間】 60分	
	第3回	わが国における社会的状況の変遷 【key words】 人口動態、社会構造 【授業概要】 わが国における人口動態や社会構造の変遷、世帯状況や家族のあり方、社会とのつながりのあり方の変遷から、支援のあり方について理解を深めていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①P. 22~38 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書指摘範囲の熟読 【予習復習に必要な想定時間】 60分	
	第4回	高齢者を支える社会福祉制度の変遷と現状 【key words】 制度の変遷 【授業概要】 1980年代、1990年代、2000年代以降の高齢者福祉制度の変遷について改めて振り返るとともに、老人福祉法の意義について考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①P. 42~53, P. 58~61 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書指摘範囲の熟読 【予習復習に必要な想定時間】 60分	
	第5回	わが国における高齢者福祉制度の変遷と地域包括ケアシステム 【key words】 地域包括ケアシステム	

	<p>【授業概要】 第4回で学んだわが国における高齢者福祉制度の変遷を踏まえ、地域包括ケアシステムの仕組みとその意義、課題について考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書①P. 54~57</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書指摘範囲の熟読</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第 6 回	<p>高齢期を支える介護保険制度</p> <p>【key words】 介護保険法 【授業概要】 介護保険の概要とその趣旨・目的について改めて理解し、現状の介護保険制度における問題点やその対策について理解を深める。</p>
第 7 回	<p>【教科書ページ・参考文献】 教科書①P. 68~79</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書指摘範囲の熟読</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>介護保険と介護予防</p> <p>【key words】 介護予防 【授業概要】 介護予防の定義を十分に理解した上で、現状の介護予防に関する事業の取り組みやその課題を知り、今後の介護予防のあり方について、討議を通して理解を深める。</p>
第 8 回	<p>【教科書ページ・参考文献】 教科書①P. 86~87 (配布プリント②P. 103, 113)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書指摘範囲の熟読</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>自立支援とリハビリテーション</p> <p>【key words】 自立支援 【授業概要】 真の自立支援とはなにか、各自の立場から自立について考えて議論する。 また、リハビリテーションの理念を基にして更なる理解を深める。</p>
第 9 回	<p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の見直し</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>高齢者における虐待・放任・自己放任に対する支援</p> <p>【key words】 虐待 【授業概要】 高齢者における虐待や放任・自己放任について学び、それらの原因や支援策、予防について考える。</p>
第 10 回	<p>【教科書ページ・参考文献】 教科書①P. 164~180 (配布プリント : 参考図書②P. 80~94)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書指摘範囲の熟読</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>高齢者に対する経済保証制度と医療保障制度</p> <p>【key words】 経済保障、医療保障 【授業概要】 高齢者に対する雇用対策や年金、生活保護、医療制度などの仕組みについて現状の課題と展望を考える。</p>
第 11 回	<p>【教科書ページ・参考文献】 プリントを配布する (参考図書②P. 60~79)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布プリントの振り返り</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>認知症について</p> <p>【key words】 認知症、DSM-5 【授業概要】 わが国に限らず世界中で社会的課題となっている認知症について深く学ぶ。具体的には、「認知症」について、医学モデルに限らず、生活モデルや社会モデルからも捉え、そのとらえ方の歴史的変遷も踏まえて学ぶ。</p>

	<p>【教科書ページ・参考文献】 配布プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布プリントの振り返り 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第12回	<p>認知症の地域生活支援 【key words】 新オレンジプラン、認知症大綱 【授業概要】 わが国における認知症の国家戦略である認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）について、学ぶと共にその具体的実践の一つである認知症初期集中支援チームを例に、具体的な地域生活支援のあり方について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 期末課題の作成 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第13回	<p>人生の最終段階における支援 【key words】 ターミナルケア 【授業概要】 終末期ケアと人生の最終段階における自己決定、その尊重について考える。</p>
第14回	<p>高齢者を支える町づくり 【key words】 まちづくり 【授業概要】 高齢者にとっての生きがいや社会参加の意義も踏まえた、「アクティブライジング」と「高齢者を支える町づくり」について、自由討議を通してそのあり方について考えを深める。</p>
第15回	<p>【教科書ページ・参考文献】 教科書①P.182～196 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書指定範囲の熟読、期末課題の作成 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p> <p>まとめ 【key words】 まとめ 【授業概要】 本科目で学んだことを今後どのように活かしていくべきか、各自の職場や職能などの特性を踏まえ、改めて考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 期末課題の作成 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
受講生への要望	これまでの経験を大切にして、話し合い、考え、まとめていく心構えで参加をしてください。特に授業の教材や文献をよく読んでおくことが必要になります。
評価方法	①課題レポート(50%)、②授業での討論・コメント(25%)、③授業内課題への取り組み(25%)
テキスト・参考書	<p>教科書は以下の① ①大塩まゆみ・奥西栄介(編著)：高齢者福祉_第3版、ミネルヴァ書房(2018)。</p> <p>参考書は以下の②以外も、授業の中で随時紹介 ②杉本敏夫・家高将明(編著)：高齢者福祉論_第2版、ミネルヴァ書房(2018)。</p>

講義科目名称：児童福祉特論

授業コード：

英文科目名称：—

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2年次	2	選択
担当教員			
江島 正子			
添付ファイル			

学修目標	児童福祉の理念は子どもの権利を保障することである。わが国において児童福祉の基本理念は日本国憲法に立脚する。児童福祉法は成立から60年余が経過した。子どもの権利を保障する考え方は戦前と戦後では大きな相違がある。人権に対する基本的概念、子どもの養育に関する考え方には、180度の転換が見られる。欧米の先進諸国の児童福祉についての歴史や理念を参照しながら、わが国におけるよりよい児童福祉のあり方を研究する。
講義の内容（基本的枠組）	小さく幼い子どもを中心に児童福祉の理論と実践についての歴史を振り返り、世界各国とわが国を比較し、日本の児童福祉の特徴を追及する。現在のわが国における児童福祉の長所は何か。短所は何か。海外において模範にできる事例は何かについて考察する。
授業計画	<p>第1回　自己紹介　児童福祉を要とした乳幼児の人間形成に関するアンケート</p> <p>第2回　アンケートの結果とわが国における幼い子どもの保育の歩み</p> <p>第3回　乳幼児の人間形成における世界の歩み</p> <p>第4回　近代史にみる保育思想史</p> <p>第5回　ロバート・オーエン　フリードリッヒ・フレーベル　エレン・ケイ</p> <p>第6回　マリア・モンテッソーリ　Casa dei bambini</p> <p>第7回　ディベイト</p> <p>第8回　児童福祉とは何か　児童福祉の理念と歴史　児童福祉の定義　保育と児童福祉</p> <p>第9回　児童福祉の分野　児童福祉の理念　日本国憲法</p> <p>第10回　児童福祉法　児童福祉の理念　児童福祉の法的根拠づけ　保育の理念</p> <p>第11回　わが国の児童福祉の歴史　明治期の児童福祉　大正期の児童福祉　昭和期の児童福祉</p> <p>第12回　平成期の児童福祉　今日の児童福祉に登場した諸問題</p> <p>第13回　家庭環境をめぐる環境の変化　児童の権利擁護</p> <p>第14回　子どもに内在する「いのち」を尊重する児童福祉</p> <p>第15回　まとめ</p>
受講生への要望	欠席・遅刻は授業時間前に届け出ること。ディベイトや・ミニレポート・発表などを通して自分の研究テーマを自主的に調べる。 講義内容とみずから選んだ課題について常に意識し、与えられた期限内に問題解決を努める。
評価方法	定期試験(50%)　ミニレポート(30%)の提出 自分の意見の発表(20%)で総合的に評価する。
テキスト・参考書	才村 純 編著『保育者のための児童福祉論』樹村房 江島正子著『たのしく育て子どもたち』サンパウロ社 マリア・モンテッソーリ著『モンテッソーリの実践理論－カルフォルニア・レクチャ』サンパウロ社

講義科目名称： 福祉サービス市場特論

授業コード：

英文科目名称： —

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2年次	2	選択
担当教員			
加部 仁			
添付ファイル			

学修目標	2000年の介護保険施行以来、福祉サービス市場における高齢者サービスの供給量は爆発的な増加を見せた。それに伴い供給主体や介護サービス(事業所)の種類も多岐に渡るようになってきていることから、本授業では高齢者介護分野に絞りサービス毎の特徴やその市場性を把握する。また本授業では実際の介護サービス事業者の事例検討や見学訪問を通じて、サービスマーケティングやアカウンティングの視点から、その成功要因を分析し自身の追体験としてインプットする。 その上で、受講者が現在所属する法人および事業所における課題についての対
講義の内容（基本的枠組）	①市場の理解と市場における立ち位置の確認 ②市場理解のための基本的ツールの作成 ③福祉サービス市場におけるサービスラインナップの整理 ④市場の分析手法 ⑤福祉事業の組織と経営 ⑥近年の市場トレンドと課題
授業計画	第1回 福祉サービス市場におけるサービスラインナップの整理 第2回 福祉事業経営の歴史と報酬改定から見る市場の変遷 第3回 SWOT分析、5 force分析 第4回 実際の介護サービス事例検討 第5回 バリューチェーン分析 第6回 実際の介護サービス事例検討 第7回 プロダクトポートフォリオマネジメント 第8回 実際の介護サービス事例検討 第9回 マーケティングの3CとSTP 第10回 実際の介護サービス事例検討 第11回 サービスマーケティングミックス 第12回 実際の介護サービス事例検討 第13回 福祉事業の組織と経営 第14回 近年の市場トレンドと課題 第15回 課題分析の提示
受講生への要望	市場は生き物です。講義だけでは市場を理解することはできません。普段よりの回りの出来事に感覚を研ぎ澄ましておき、興味を持つことが大切です。受け身にならず、授業への主体的な参加を期待します。
評価方法	最終発表40%、レポート60%
テキスト・参考書	【テキスト】 ・各回の授業テーマに基づいた教材を提供します 【参考書】 ・授業内で適宜指示します

講義科目名称： 医療・福祉教育方法特論

授業コード：

英文科目名称： —

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2年次	2	選択
担当教員			
塙本 忠男			
添付ファイル			

学修目標	・指導方法についての学びを深め、指導者としての実践に生かすことができるようになる。 ・指導方法に関する基礎的概念を習得することができる。 ・発表や討論を経験することにより、表現力をきたえるとともに他者の考えを知り、豊かな発想につなげることができる。
講義の内容（基本的枠組）	本講義では、医療・福祉分野における教育方法について学習する。そして、教育方法の意義と内容を学習・研究し、実践に役立てる。授業の後半は、演習形式で履修者に課題に取り組んでもらう予定である。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 指導の技術 第3回 指導のデザイン 第4回 指導での目標づくり 第5回 指導者の姿勢と心構え 第6回 体験的学習の意義と課題 第7回 近代教育思想 第8回 教育の原理・方法 第9回 発達と学習心理 第10回 コミュニケーションの基礎理論 第11回 指導計画の作成と応用(1) 第12回 指導計画の作成と応用(2) 第13回 現場での教育理論の応用(1) 第14回 現場での教育理論の応用(2) 第15回 総括
受講生への要望	・意欲的な学習態度であること。 ・指導者としての在り方について、常に意識を持って学生生活を行えること。 ・授業で配布する資料はファイルして保管すること。
評価方法	発表内容(40%) とレポート(60%) で総合的に評価する。
テキスト・参考書	テキストとして必要に応じてプリントを配布する。 参考書は授業内で適宜紹介する。

講義科目名称：社会調査特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
白石 憲一			
添付ファイル			

学修目標	<ul style="list-style-type: none"> ・統計的考え方の理解。 ・統計分析の手法の習得。 ・データから豊かで実りのある情報を引き出すための技法の習得。 ・データ分析の進め方の習得。 ・統計ソフトの操作の習熟。 ・統計理論の習得。 																														
講義の内容（基本的枠組）	本講座は、数量データの分析をするために、どのような知識や手法が必要となるかを説明する。具体的には、相関係数、カイ2乗検定、t検定、回帰分析の手法を中心に学習していく。授業ではパソコンとデータを用いて、実践形式で学習していく。最後に各自の関心に従って、受講生自らが研究計画を立て、数量データによる統計分析を行っていく。																														
授業計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">第1回</td> <td>イントロダクション</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>統計分析の進め方</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>データの収集と編成</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>グラフ表現</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>統計ソフトの基本操作</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>データのはらつき</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>データの操作と比較</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>散布図と相関係数</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>データの品質</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>クロス集計表と仮説検定</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>平均値の差の検定</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>回帰分析(1)</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>回帰分析(2)</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>統計分析プロジェクト(1)</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>統計分析プロジェクト(2)</td> </tr> </table>	第1回	イントロダクション	第2回	統計分析の進め方	第3回	データの収集と編成	第4回	グラフ表現	第5回	統計ソフトの基本操作	第6回	データのはらつき	第7回	データの操作と比較	第8回	散布図と相関係数	第9回	データの品質	第10回	クロス集計表と仮説検定	第11回	平均値の差の検定	第12回	回帰分析(1)	第13回	回帰分析(2)	第14回	統計分析プロジェクト(1)	第15回	統計分析プロジェクト(2)
第1回	イントロダクション																														
第2回	統計分析の進め方																														
第3回	データの収集と編成																														
第4回	グラフ表現																														
第5回	統計ソフトの基本操作																														
第6回	データのはらつき																														
第7回	データの操作と比較																														
第8回	散布図と相関係数																														
第9回	データの品質																														
第10回	クロス集計表と仮説検定																														
第11回	平均値の差の検定																														
第12回	回帰分析(1)																														
第13回	回帰分析(2)																														
第14回	統計分析プロジェクト(1)																														
第15回	統計分析プロジェクト(2)																														
受講生への要望	修士論文の作成を念頭に置いたうえで、主体的に授業に参加することが望まれる。																														
評価方法	学習態度40%、試験等60%																														
テキスト・参考書	基本教材として必要に応じてプリントを配布する。 参考図書は授業において紹介する。																														

講義科目名称：社会福祉経営研究・演習

授業コード：

英文科目名称：—

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2	2	必修
担当教員			
稻葉 一洋			
添付ファイル			

学修目標	社会福祉の現代的な機能と文脈、それを踏まえた社会福祉の政策（計画）と、その管理・運営についての理解を深める。そのため講義を行うとともに、受講生によるレポートの作成、教室でのディスカッションを通じた学習を行うことにより、今日的な社会福祉及び社会福祉経営の視点や考え方の習得を目指とする。
講義の内容（基本的枠組）	①社会福祉の基本枠組（主体・対象・方法）を学ぶ。 ②福祉国家と福祉社会との協働を学ぶ。 ③近年社会福祉政策の動向と福祉課題を学ぶ。 ④地域における社会福祉経営の展開を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 社会福祉の基本枠組（主体－政策・実践・経営、対象－ニード・問題、方法－サービス・福祉資源・ソーシャルワーク）と、それらの変化及び相互の連関を理解する。</p> <p>第3回 社会福祉の基本枠組（主体－政策・実践・経営、対象－ニード・問題、方法－サービス・福祉資源・ソーシャルワーク）と、それらの変化及び相互の連関を理解する。</p> <p>第4回 社会福祉の基本枠組（主体－政策・実践・経営、対象－ニード・問題、方法－サービス・福祉資源・ソーシャルワーク）と、それらの変化及び相互の連関を理解する。</p> <p>第5回 社会福祉の基本枠組（主体－政策・実践・経営、対象－ニード・問題、方法－サービス・福祉資源・ソーシャルワーク）と、それらの変化及び相互の連関を理解する。</p> <p>第6回 社会福祉の基本枠組（主体－政策・実践・経営、対象－ニード・問題、方法－サービス・福祉資源・ソーシャルワーク）と、それらの変化及び相互の連関を理解する。</p> <p>第7回 福祉国家と福祉社会との協働を理解する。従来の公私機能分担と比較し、「自助・共助・公助」による地域福祉型社会福祉の構築の論理と視点を理解する。</p> <p>第8回 福祉国家と福祉社会との協働を理解する。従来の公私機能分担と比較し、「自助・共助・公助」による地域福祉型社会福祉の構築の論理と視点を理解する。</p> <p>第9回 福祉国家と福祉社会との協働を理解する。従来の公私機能分担と比較し、「自助・共助・公助」による地域福祉型社会福祉の構築の論理と視点を理解する。</p> <p>第10回 福祉国家と福祉社会との協働を理解する。従来の公私機能分担と比較し、「自助・共助・公助」による地域福祉型社会福祉の構築の論理と視点を理解する。</p> <p>第11回 近年社会福祉政策の動向と福祉課題を理解する。現代日本の福祉改革に焦点を当て、とくに「社会福祉法」成立を経て、2017年「社会福祉法」改正に至る社会福祉政策の推移と特質を捉える。</p> <p>第12回 近年社会福祉政策の動向と福祉課題を理解する。現代日本の福祉改革に焦点を当て、とくに「社会福祉法」成立を経て、2017年「社会福祉法」改正に至る社会福祉政策の推移と特質を捉える。</p> <p>第13回 近年社会福祉政策の動向と福祉課題を理解する。現代日本の福祉改革に焦点を当て、とくに「社会福祉法」成立を経て、2017年「社会福祉法」改正に至る社会福祉政策の推移と特質を捉える。</p> <p>第14回 近年社会福祉政策の動向と福祉課題を理解する。現代日本の福祉改革に焦点を当て、とくに「社会福祉法」成立を経て、2017年「社会福祉法」改正に至る社会福祉政策の推移と特質を捉える。</p> <p>第15回 近年社会福祉政策の動向と福祉課題を理解する。現代日本の福祉改革に焦点を当て、とくに「社会福祉法」成立を経て、2017年「社会福祉法」改正に至る社会福祉政策の推移と特質を捉える。</p> <p>第16回 近年社会福祉政策の動向と福祉課題を理解する。現代日本の福祉改革に焦点を当て、とくに</p>

	「社会福祉法」成立を経て、2017年「社会福祉法」改正に至る社会福祉政策の推移と特質を捉える。
第 17 回	近年社会福祉政策の動向と福祉課題を理解する。現代日本の福祉改革に焦点を当て、とくに「社会福祉法」成立を経て、2017年「社会福祉法」改正に至る社会福祉政策の推移と特質を捉える。
第 18 回	近年社会福祉政策の動向と福祉課題を理解する。現代日本の福祉改革に焦点を当て、とくに「社会福祉法」成立を経て、2017年「社会福祉法」改正に至る社会福祉政策の推移と特質を捉える。
第 19 回	近年社会福祉政策の動向と福祉課題を理解する。現代日本の福祉改革に焦点を当て、とくに「社会福祉法」成立を経て、2017年「社会福祉法」改正に至る社会福祉政策の推移と特質を捉える。
第 20 回	近年社会福祉政策の動向と福祉課題を理解する。現代日本の福祉改革に焦点を当て、とくに「社会福祉法」成立を経て、2017年「社会福祉法」改正に至る社会福祉政策の推移と特質を捉える。
第 21 回	地域福祉の推進と包括的な支援体制構築の進捗状況を理解する。そのために事例なども用いながら、地域福祉計画と他計画による地域福祉の推進、協働による包括的な支援体制の構築、地域づくりと重層的な圏域設定について授業を行う。
第 22 回	地域福祉の推進と包括的な支援体制構築の進捗状況を理解する。そのために事例なども用いながら、地域福祉計画と他計画による地域福祉の推進、協働による包括的な支援体制の構築、地域づくりと重層的な圏域設定について授業を行う。
第 23 回	地域福祉の推進と包括的な支援体制構築の進捗状況を理解する。そのために事例なども用いながら、地域福祉計画と他計画による地域福祉の推進、協働による包括的な支援体制の構築、地域づくりと重層的な圏域設定について授業を行う。
第 24 回	地域福祉の推進と包括的な支援体制構築の進捗状況を理解する。そのために事例なども用いながら、地域福祉計画と他計画による地域福祉の推進、協働による包括的な支援体制の構築、地域づくりと重層的な圏域設定について授業を行う。
第 25 回	地域福祉の推進と包括的な支援体制構築の進捗状況を理解する。そのために事例なども用いながら、地域福祉計画と他計画による地域福祉の推進、協働による包括的な支援体制の構築、地域づくりと重層的な圏域設定について授業を行う。
第 26 回	地域福祉の推進と包括的な支援体制構築の進捗状況を理解する。そのために事例なども用いながら、地域福祉計画と他計画による地域福祉の推進、協働による包括的な支援体制の構築、地域づくりと重層的な圏域設定について授業を行う。
第 27 回	地域福祉の推進と包括的な支援体制構築の進捗状況を理解する。そのために事例なども用いながら、地域福祉計画と他計画による地域福祉の推進、協働による包括的な支援体制の構築、地域づくりと重層的な圏域設定について授業を行う。
第 28 回	地域福祉の推進と包括的な支援体制構築の進捗状況を理解する。そのために事例なども用いながら、地域福祉計画と他計画による地域福祉の推進、協働による包括的な支援体制の構築、地域づくりと重層的な圏域設定について授業を行う。
第 29 回	地域福祉の推進と包括的な支援体制構築の進捗状況を理解する。そのために事例なども用いながら、地域福祉計画と他計画による地域福祉の推進、協働による包括的な支援体制の構築、地域づくりと重層的な圏域設定について授業を行う。
第 30 回	地域福祉の推進と包括的な支援体制構築の進捗状況を理解する。そのために事例なども用いながら、地域福祉計画と他計画による地域福祉の推進、協働による包括的な支援体制の構築、地域づくりと重層的な圏域設定について授業を行う。
受講生への要望	授業への積極的な参加と取り組み（授業外学修、レポート作成）を期待します。
評価方法	授業への出席・参加・発言（40%）と課題レポート（60%）を目安として総合的に評価します。
テキスト・参考書	使用しない。

講義科目名称：人事労務管理特論

授業コード：

英文科目名称：—

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2	選択
担当教員			
森田 隆夫			
添付ファイル			

学修目標	現代社会福祉事業における労務管理の意義を理解するとともに、人事・労務法制、判例等を通じて具体的に思考すること。																														
講義の内容（基本的枠組）	社会福祉事業の経営管理における人事・労務管理の意義と効用について概観するとともに、これに関わる法制度や理論を法令、通達、判例および事件を通して具体的な実務的に研究する。																														
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション 授業の開始にあたって、授業の進め方、成績評価の方法(レポート課題内容の提示)を説明したうえで、授業で検討する判例の取り扱い方法を講義する。</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>我が国の社会福祉事業経営の変化と人事業務管理 社会福祉事業における組織の意義、組織原則、組織管理の実際について概説し、討議を行う。</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>人事管理の基本的事項の概説 社会福祉事業における人事管理の目的・機能、社会福祉サービスにおける人事管理について概説し、討議を行う。</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>労務管理の意義 社会福祉施設における労務管理の意義、職場における人間関係の管理、労務管理に関する法令について概説し、討議を行う。</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>労務管理と労務法制 社会福祉施設における労務管理に関する法令について概説し、討議を行う。</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>労働契約法のあらましⅠ 労働契約法における総則、労働契約の成立及び変更の各条文につき概説し、討議を行う。</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>労働契約法のあらましⅡ 労働契約法における労働契約の継続及び終了、期間の定めのある労働契約の各条文につき概説し、討議を行う。</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>労働基準法のあらましⅠ 労働基準法における総則、労働契約の各条文につき概説し、討議を行う。</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>労働基準法のあらましⅡ 労働基準法における賃金の各条文につき概説し、討議を行う。</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>労働基準法のあらましⅢ 労働基準法における労働時間、休憩、休日及び年次有給休暇の各条文につき概説し、討議を行う。</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>労働基準法のあらましⅣ 労働基準法における年少者、妊娠婦等、就業規則の各条文につき概説し、討議を行う。</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>労働組合法、労働関係調整法のあらまし 労働組合法、労働関係調整法の主要な条文につき概説し、討議を行う。</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>労働関係判例の動向等Ⅰ 労働契約法に関する判例につき概説し、討議を行う。</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>労働関係判例の動向等Ⅱ 労働基準法に関する判例につき概説し、討議を行う。</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>労働関係判例の動向等Ⅲ 労働基準法、労働組合法、労働関係調整法に関する判例につき概説し、討議を行う。</td> </tr> </table>	第1回	オリエンテーション 授業の開始にあたって、授業の進め方、成績評価の方法(レポート課題内容の提示)を説明したうえで、授業で検討する判例の取り扱い方法を講義する。	第2回	我が国の社会福祉事業経営の変化と人事業務管理 社会福祉事業における組織の意義、組織原則、組織管理の実際について概説し、討議を行う。	第3回	人事管理の基本的事項の概説 社会福祉事業における人事管理の目的・機能、社会福祉サービスにおける人事管理について概説し、討議を行う。	第4回	労務管理の意義 社会福祉施設における労務管理の意義、職場における人間関係の管理、労務管理に関する法令について概説し、討議を行う。	第5回	労務管理と労務法制 社会福祉施設における労務管理に関する法令について概説し、討議を行う。	第6回	労働契約法のあらましⅠ 労働契約法における総則、労働契約の成立及び変更の各条文につき概説し、討議を行う。	第7回	労働契約法のあらましⅡ 労働契約法における労働契約の継続及び終了、期間の定めのある労働契約の各条文につき概説し、討議を行う。	第8回	労働基準法のあらましⅠ 労働基準法における総則、労働契約の各条文につき概説し、討議を行う。	第9回	労働基準法のあらましⅡ 労働基準法における賃金の各条文につき概説し、討議を行う。	第10回	労働基準法のあらましⅢ 労働基準法における労働時間、休憩、休日及び年次有給休暇の各条文につき概説し、討議を行う。	第11回	労働基準法のあらましⅣ 労働基準法における年少者、妊娠婦等、就業規則の各条文につき概説し、討議を行う。	第12回	労働組合法、労働関係調整法のあらまし 労働組合法、労働関係調整法の主要な条文につき概説し、討議を行う。	第13回	労働関係判例の動向等Ⅰ 労働契約法に関する判例につき概説し、討議を行う。	第14回	労働関係判例の動向等Ⅱ 労働基準法に関する判例につき概説し、討議を行う。	第15回	労働関係判例の動向等Ⅲ 労働基準法、労働組合法、労働関係調整法に関する判例につき概説し、討議を行う。
第1回	オリエンテーション 授業の開始にあたって、授業の進め方、成績評価の方法(レポート課題内容の提示)を説明したうえで、授業で検討する判例の取り扱い方法を講義する。																														
第2回	我が国の社会福祉事業経営の変化と人事業務管理 社会福祉事業における組織の意義、組織原則、組織管理の実際について概説し、討議を行う。																														
第3回	人事管理の基本的事項の概説 社会福祉事業における人事管理の目的・機能、社会福祉サービスにおける人事管理について概説し、討議を行う。																														
第4回	労務管理の意義 社会福祉施設における労務管理の意義、職場における人間関係の管理、労務管理に関する法令について概説し、討議を行う。																														
第5回	労務管理と労務法制 社会福祉施設における労務管理に関する法令について概説し、討議を行う。																														
第6回	労働契約法のあらましⅠ 労働契約法における総則、労働契約の成立及び変更の各条文につき概説し、討議を行う。																														
第7回	労働契約法のあらましⅡ 労働契約法における労働契約の継続及び終了、期間の定めのある労働契約の各条文につき概説し、討議を行う。																														
第8回	労働基準法のあらましⅠ 労働基準法における総則、労働契約の各条文につき概説し、討議を行う。																														
第9回	労働基準法のあらましⅡ 労働基準法における賃金の各条文につき概説し、討議を行う。																														
第10回	労働基準法のあらましⅢ 労働基準法における労働時間、休憩、休日及び年次有給休暇の各条文につき概説し、討議を行う。																														
第11回	労働基準法のあらましⅣ 労働基準法における年少者、妊娠婦等、就業規則の各条文につき概説し、討議を行う。																														
第12回	労働組合法、労働関係調整法のあらまし 労働組合法、労働関係調整法の主要な条文につき概説し、討議を行う。																														
第13回	労働関係判例の動向等Ⅰ 労働契約法に関する判例につき概説し、討議を行う。																														
第14回	労働関係判例の動向等Ⅱ 労働基準法に関する判例につき概説し、討議を行う。																														
第15回	労働関係判例の動向等Ⅲ 労働基準法、労働組合法、労働関係調整法に関する判例につき概説し、討議を行う。																														
受講生への要望	予習、復習を行うこと。質問に答えてもらう場合もあるので、特に事前の学習を心掛けて頂きた い。 学部で憲法、社会福祉法制等の授業を受けておくことが望ましい。																														
評価方法	プレゼン(40%)、提出課題の内容(60%)により判断する。																														
テキスト・参考書	<p>【テキスト】 ・宇山勝儀・小林理 編著「社会福祉事業経営論」光生館 2011年</p> <p>【参考書】 ・講義時にその都度説明する。</p>																														

講義科目名称： 地域福祉経営特論

授業コード：

英文科目名称： 一

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分																														
前期	1	2	選択																														
担当教員																																	
稻葉 一洋																																	
添付ファイル																																	
学修目標	地域包括ケアを理解し、さらに地域包括支援センター等における支援内容や支援方法を理解することを目標とする。																																
講義の内容（基本的枠組）	地域包括ケアや地域包括支援センターの支援について学習し、地域における支援の実際について学ぶ。																																
授業計画	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>イントロダクション</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>地域包括ケアの仕組み・方法論</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>地域包括ケアの事例研究</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>地域包括支援センターの現状と課題</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>地域包括支援センターの支援の事例研究</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>他職種連携・関係機関のネットワークの現状と課題</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>他職種連携・関係機関のネットワークの事例研究</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>他職種連携・関係機関のネットワークの事例研究</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>地域福祉の概念</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>地域福祉と地域住民・地域コミュニティ</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>地域福祉と市町村社会福祉協議会</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>地域福祉と福祉サービス提供民間組織</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>地域福祉と市町村行政、制度的協議機関</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>地域福祉と民生委員・児童委員</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>地域福祉の財源と共同募金</td></tr> </table>			第 1 回	イントロダクション	第 2 回	地域包括ケアの仕組み・方法論	第 3 回	地域包括ケアの事例研究	第 4 回	地域包括支援センターの現状と課題	第 5 回	地域包括支援センターの支援の事例研究	第 6 回	他職種連携・関係機関のネットワークの現状と課題	第 7 回	他職種連携・関係機関のネットワークの事例研究	第 8 回	他職種連携・関係機関のネットワークの事例研究	第 9 回	地域福祉の概念	第 10 回	地域福祉と地域住民・地域コミュニティ	第 11 回	地域福祉と市町村社会福祉協議会	第 12 回	地域福祉と福祉サービス提供民間組織	第 13 回	地域福祉と市町村行政、制度的協議機関	第 14 回	地域福祉と民生委員・児童委員	第 15 回	地域福祉の財源と共同募金
第 1 回	イントロダクション																																
第 2 回	地域包括ケアの仕組み・方法論																																
第 3 回	地域包括ケアの事例研究																																
第 4 回	地域包括支援センターの現状と課題																																
第 5 回	地域包括支援センターの支援の事例研究																																
第 6 回	他職種連携・関係機関のネットワークの現状と課題																																
第 7 回	他職種連携・関係機関のネットワークの事例研究																																
第 8 回	他職種連携・関係機関のネットワークの事例研究																																
第 9 回	地域福祉の概念																																
第 10 回	地域福祉と地域住民・地域コミュニティ																																
第 11 回	地域福祉と市町村社会福祉協議会																																
第 12 回	地域福祉と福祉サービス提供民間組織																																
第 13 回	地域福祉と市町村行政、制度的協議機関																																
第 14 回	地域福祉と民生委員・児童委員																																
第 15 回	地域福祉の財源と共同募金																																
受講生への要望	修士論文の作成を念頭に置いたうえで、主体的に授業に参加することが望まれる。																																
評価方法	提出課題の内容(100%)により判断する。																																
テキスト・参考書	基本教材として必要に応じてプリントを配布する。 参考図書は授業において紹介する。																																

講義科目名称：社会福祉行財政特論

授業コード：

英文科目名称：—

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
松原 直樹			
添付ファイル			

学修目標	社会福祉の大きな流れと我が国の置かれている現状を理解したうえで、国や自治体の抱える社会福祉行政・財政の課題とそれに対する政策の在り方について、具体的な動きや事例を通して考察し、社会福祉行財政に対する自分なりの見方・考え方を身につける。																														
講義の内容（基本的枠組）	中央法規出版発行の最新の「社会福祉の動向」（社会福祉の動向編集委員会）を基本テキストとして、社会福祉行財政を取り巻く今日的な課題を読み解いていく。また、自治体や施設の現場の状況を直接肌で感じるため、具体的な資料に当たるほか見学又はヒアリングの機会を設ける。																														
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>社会福祉行財政概説(仕組みと運営・講義)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>テキスト第2章「社会福祉の基盤」（ゼミ形式）</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>テキスト第4章「地域福祉」（ゼミ形式）</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>テキスト第3章「公的福祉」（ゼミ形式）</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>テキスト第5章「児童家庭福祉」（ゼミ形式）</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>テキスト第5章「児童家庭福祉」（ゼミ形式）</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>テキスト第6章「障害者福祉」（ゼミ形式）</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>テキスト第6章「障害者福祉」（ゼミ形式）</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>テキスト第7章「高齢者福祉」（ゼミ形式）</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>テキスト第7章「高齢者福祉」（ゼミ形式）</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>テキスト第1章「最近の動向と課題」（ゼミ形式）</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>社会福祉の現場視察(施設見学)</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>社会福祉の現場視察(施設見学)</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめ(レポート発表)</td> </tr> </table>	第1回	オリエンテーション	第2回	社会福祉行財政概説(仕組みと運営・講義)	第3回	テキスト第2章「社会福祉の基盤」（ゼミ形式）	第4回	テキスト第4章「地域福祉」（ゼミ形式）	第5回	テキスト第3章「公的福祉」（ゼミ形式）	第6回	テキスト第5章「児童家庭福祉」（ゼミ形式）	第7回	テキスト第5章「児童家庭福祉」（ゼミ形式）	第8回	テキスト第6章「障害者福祉」（ゼミ形式）	第9回	テキスト第6章「障害者福祉」（ゼミ形式）	第10回	テキスト第7章「高齢者福祉」（ゼミ形式）	第11回	テキスト第7章「高齢者福祉」（ゼミ形式）	第12回	テキスト第1章「最近の動向と課題」（ゼミ形式）	第13回	社会福祉の現場視察(施設見学)	第14回	社会福祉の現場視察(施設見学)	第15回	まとめ(レポート発表)
第1回	オリエンテーション																														
第2回	社会福祉行財政概説(仕組みと運営・講義)																														
第3回	テキスト第2章「社会福祉の基盤」（ゼミ形式）																														
第4回	テキスト第4章「地域福祉」（ゼミ形式）																														
第5回	テキスト第3章「公的福祉」（ゼミ形式）																														
第6回	テキスト第5章「児童家庭福祉」（ゼミ形式）																														
第7回	テキスト第5章「児童家庭福祉」（ゼミ形式）																														
第8回	テキスト第6章「障害者福祉」（ゼミ形式）																														
第9回	テキスト第6章「障害者福祉」（ゼミ形式）																														
第10回	テキスト第7章「高齢者福祉」（ゼミ形式）																														
第11回	テキスト第7章「高齢者福祉」（ゼミ形式）																														
第12回	テキスト第1章「最近の動向と課題」（ゼミ形式）																														
第13回	社会福祉の現場視察(施設見学)																														
第14回	社会福祉の現場視察(施設見学)																														
第15回	まとめ(レポート発表)																														
受講生への要望	テキストを良く読みこなして、不明な点、疑問点は事前に調べておくこと、受講生が交代でテキストの解説(自分なりの分析・課題認識を加えて)を行うものとする。発表は時間の関係上、特に関心を持った項目だけでも良いこと(レジュメ作成・受講生分用意)。発表の内容に対して他の受講生が質問したり、意見を述べ合うことで内容がより深みのあるものになる。																														
評価方法	学習態度(30%)、レポート(70%)で総合的に判断する。																														
テキスト・参考書	<p>【テキスト】 「社会福祉の動向(最新版)」中央法規出版</p> <p>【参考書】 「社会福祉行財政と福祉計画」中央法規出版 「社会福祉行政論(行政・財政・福祉計画)」ミネルヴァ書房 「国民の福祉と介護の動向(最新版)」厚生労働統計協会</p>																														

講義科目名称： 地域福祉計画特論

授業コード：

英文科目名称： 一

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2年次	2	選択
担当教員			
稻葉 一洋			
添付ファイル			

学修目標	地域福祉経営としての計画の重要性を理解するまでを到達目標とする。																														
講義の内容（基本的枠組）	地域福祉の理論と地域福祉計画の策定・実施・進行管理を実証的に学ぶ。																														
授業計画	<table><tr><td>第 1 回</td><td>地域福祉の概念の整理</td></tr><tr><td>第 2 回</td><td>地域福祉の動向と課題</td></tr><tr><td>第 3 回</td><td>地域福祉計画の現状</td></tr><tr><td>第 4 回</td><td>地域福祉計画の策定</td></tr><tr><td>第 5 回</td><td>地域福祉計画の進行管理</td></tr><tr><td>第 6 回</td><td>地域福祉計画の事例研究①</td></tr><tr><td>第 7 回</td><td>地域福祉計画の事例研究②</td></tr><tr><td>第 8 回</td><td>地域福祉計画の事例研究③</td></tr><tr><td>第 9 回</td><td>地域福祉計画の事例研究④</td></tr><tr><td>第 10 回</td><td>地域福祉計画の事例研究⑤</td></tr><tr><td>第 11 回</td><td>地域福祉計画の事例研究⑥</td></tr><tr><td>第 12 回</td><td>地域福祉計画の事例研究⑦</td></tr><tr><td>第 13 回</td><td>地域福祉計画の事例研究⑧</td></tr><tr><td>第 14 回</td><td>フリートーキング</td></tr><tr><td>第 15 回</td><td>まとめ</td></tr></table>	第 1 回	地域福祉の概念の整理	第 2 回	地域福祉の動向と課題	第 3 回	地域福祉計画の現状	第 4 回	地域福祉計画の策定	第 5 回	地域福祉計画の進行管理	第 6 回	地域福祉計画の事例研究①	第 7 回	地域福祉計画の事例研究②	第 8 回	地域福祉計画の事例研究③	第 9 回	地域福祉計画の事例研究④	第 10 回	地域福祉計画の事例研究⑤	第 11 回	地域福祉計画の事例研究⑥	第 12 回	地域福祉計画の事例研究⑦	第 13 回	地域福祉計画の事例研究⑧	第 14 回	フリートーキング	第 15 回	まとめ
第 1 回	地域福祉の概念の整理																														
第 2 回	地域福祉の動向と課題																														
第 3 回	地域福祉計画の現状																														
第 4 回	地域福祉計画の策定																														
第 5 回	地域福祉計画の進行管理																														
第 6 回	地域福祉計画の事例研究①																														
第 7 回	地域福祉計画の事例研究②																														
第 8 回	地域福祉計画の事例研究③																														
第 9 回	地域福祉計画の事例研究④																														
第 10 回	地域福祉計画の事例研究⑤																														
第 11 回	地域福祉計画の事例研究⑥																														
第 12 回	地域福祉計画の事例研究⑦																														
第 13 回	地域福祉計画の事例研究⑧																														
第 14 回	フリートーキング																														
第 15 回	まとめ																														
受講生への要望	市町村や社協の地域福祉計画入手し、比較研究する。																														
評価方法	基準：プレゼン30点、授業内での発言20点、レポート50点																														
テキスト・参考書	川村匡由・地域福祉とソーシャルガバナンス・中央法規																														

講義科目名称： 地域福祉経営研究・演習

授業コード：

英文科目名称： —

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2	2	選択
担当教員			
笹澤 武			
添付ファイル			

学修目標	地域福祉の位置づけ及び地域福祉経営のための基本課題等について、講義、レポート、発表討議及び講評等を通じて学修し、地域福祉経営の視点と考え方を習得することを目標とする。																																												
講義の内容（基本的枠組）	下記授業計画に記載される地域福祉経営に関する主要な基本課題について、導入講義として、大項目に関する講義、「基本講義」と、各論的な「テーマ講義」を随時配するとともに、履修生による「発表と討議」及び「レポート提出」により研究・演習を行う。																																												
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>基本講義1 「地域福祉への多角的アプローチ」</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>基本講義2 「地域福祉の現状と今日的課題」</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>テーマ講義① 「地域福祉の主要理論の系譜」</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>テーマ講義② 「地域福祉の主体、福祉コミュニティをめぐる論点」</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>テーマ講義③ 「『在宅福祉サービスの戦略』の視点と枠組」</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>テーマ講義④ 「社会福祉の機能、資源の地域配置」</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>自由討議、中間のまとめ</td> </tr> <tr> <td>第16回</td> <td>基本講義3 「地方分権と地域福祉行政」</td> </tr> <tr> <td>第17回</td> <td>基本講義4 「地域福祉と社会福祉協議会」</td> </tr> <tr> <td>第18回</td> <td>テーマ講義⑤ 「地域福祉計画の系譜と課題」</td> </tr> <tr> <td>第19回</td> <td>テーマ講義⑥ 「民間組織による地域福祉推進の課題」</td> </tr> <tr> <td>第20回</td> <td>上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等</td> </tr> <tr> <td>第21回</td> <td>上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等</td> </tr> <tr> <td>第22回</td> <td>上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等</td> </tr> </table>	第1回	基本講義1 「地域福祉への多角的アプローチ」	第2回	基本講義2 「地域福祉の現状と今日的課題」	第3回	テーマ講義① 「地域福祉の主要理論の系譜」	第4回	テーマ講義② 「地域福祉の主体、福祉コミュニティをめぐる論点」	第5回	上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等	第6回	上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等	第7回	上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等	第8回	上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等	第9回	テーマ講義③ 「『在宅福祉サービスの戦略』の視点と枠組」	第10回	テーマ講義④ 「社会福祉の機能、資源の地域配置」	第11回	上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等	第12回	上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等	第13回	上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等	第14回	上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等	第15回	自由討議、中間のまとめ	第16回	基本講義3 「地方分権と地域福祉行政」	第17回	基本講義4 「地域福祉と社会福祉協議会」	第18回	テーマ講義⑤ 「地域福祉計画の系譜と課題」	第19回	テーマ講義⑥ 「民間組織による地域福祉推進の課題」	第20回	上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等	第21回	上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等	第22回	上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等
第1回	基本講義1 「地域福祉への多角的アプローチ」																																												
第2回	基本講義2 「地域福祉の現状と今日的課題」																																												
第3回	テーマ講義① 「地域福祉の主要理論の系譜」																																												
第4回	テーマ講義② 「地域福祉の主体、福祉コミュニティをめぐる論点」																																												
第5回	上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等																																												
第6回	上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等																																												
第7回	上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等																																												
第8回	上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等																																												
第9回	テーマ講義③ 「『在宅福祉サービスの戦略』の視点と枠組」																																												
第10回	テーマ講義④ 「社会福祉の機能、資源の地域配置」																																												
第11回	上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等																																												
第12回	上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等																																												
第13回	上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等																																												
第14回	上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等																																												
第15回	自由討議、中間のまとめ																																												
第16回	基本講義3 「地方分権と地域福祉行政」																																												
第17回	基本講義4 「地域福祉と社会福祉協議会」																																												
第18回	テーマ講義⑤ 「地域福祉計画の系譜と課題」																																												
第19回	テーマ講義⑥ 「民間組織による地域福祉推進の課題」																																												
第20回	上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等																																												
第21回	上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等																																												
第22回	上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等																																												

	<p>第23回 上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等</p> <p>第24回 テーマ講義⑦ 「コミュニティソーシャルワーク」</p> <p>第25回 テーマ講義⑧ 「地域福祉ニーズ、その探求方法」</p> <p>第26回 上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等</p> <p>第27回 上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等</p> <p>第28回 上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等</p> <p>第29回 上記テーマに基づくレポートにより、発表、討議、講評等</p> <p>第30回 自由討議、まとめ</p>
受講生への要望	基本講義及びテーマ講義及び示唆された文献・資料等でレポートを作成し発表するとともに、それに基づいて討論が行えるよう準備すること。
評価方法	レポート提出（70%）・発表（30%）で総合的に評価する。
テキスト・参考書	<p>【テキスト】 『新・社会福祉士養成講座第9巻地域福祉の理論と方法(第2版)』（中央法規出版、2010年）</p> <p>【参考書】 日本地域福祉学会編『地域福祉事典』（2006年中央法規出版）。 岡村重夫著『地域福祉論』（光生館、1974年） 大橋謙策『地域福祉』（放送大学教育振興会、1999年） 三浦文夫『増補改訂社会福祉政策研究』（全国社会福祉協議会、1995年）。 『これから地域福祉のあり方に関する研究会報告：地域における「新しい支え合い」を求めて－住民と行政の協働による新しい福祉－』（全国社会福祉協議会、20</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	2	選択
担当教員			
西山智春・酒井美子			
添付ファイル			

学修目標	<p>1) 地域看護の高度な実践力の修得 (1) 地域看護の実態把握と課題を明らかにし、看護活動改善のための評価方法と改善に向けた検討ができる。 (2) 看護専門職者として地域で生活する人々への多様な看護実践の方法を修得できる。 (3) チームケアにおいてコーディネートを行い、リーダー的役割を果たすことができる。</p> <p>2) 地域看護の研究法の修得 (1) 地域看護の国内外の研究動向を学び、自己の研究課題の焦点を絞り、自己の研究の位置づけを明らかにできる。 (2) 地域看護の研究テーマと研究方法を具体化させるプロセスを理解し、研究者としての倫理に基づく研究的能力を養う。</p>
講義の内容（基本的枠組）	<p>本科目では、地域看護の多様な看護実践力の修得をめざし、地域看護の研究と実践力強化のために、地域看護の概念、理論、動向、現状について理解をする。その上で、地域看護研究の動向、研究計画、研究方法について学ぶ。</p> <p>研究課題を現場の看護活動に参加して、調査や事例検討等によりまとめる実践的研究を行う。地域の公的（行政的）・民間サービスに関連する看護実践力の強化をめざして実践例を用いた演習を行う。特に地域で生活する人々への多様な看護ができる専門職者として、実践力強化、相談、指導、コーディネート、倫理的課題の調整を検討する。</p>
授業計画	<p>第 1 回 科目ガイダンス、地域看護研究の動向 【key words】</p> <p>科目ガイダンス 地域・家族看護 看護研究 【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目ガイダンスにおいて、科目的特徴及び学習方法、評価等について説明する。 ・わが国の地域看護の現状と研究の動向について概説する。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜紹介する。 <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を熟読する。 ・学習計画を立案する。 <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>1 時間</p>
第 2 回	<p>研究分野(小児看護学含む)に関する研究の動向 【key words】</p> <p>小児看護学 小児在宅看護 研究の動向 【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究分野(小児看護学、小児在宅看護含む)に関する研究の動向について概説する。 ・地域看護の概念・取り巻く社会背景・地域包括ケアシステムについて考察する。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜紹介する。 <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を熟読する。 <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>1 時間</p>
第 3 回	<p>看護学研究で求められる研究倫理 (1) 【key words】</p> <p>研究倫理 看護専門職者 倫理的配慮 人権擁護 【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究倫理及び看護研究に関する倫理について概説する。 ・研究者及び看護専門職者としての倫理、人権擁護についてディスカッションする。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜紹介する。 <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究倫理に関連する文献を熟読する。ディスカッションの準備をする。 <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>1 時間</p> <p>看護学研究で求められる研究倫理 (2) 【key words】</p> <p>研究倫理審査 グリーンブック (研究者の心得) 科学研究費 【授業概要】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学研究における研究倫理審査について概説する。 ・科学研究費申請等について説明する。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜紹介する。 <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料及びグリーンブックを熟読する。 <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>1時間</p>
第5回	<p>研究論文のクリティイーク (1)</p> <p>【key words】</p> <p>量的研究 看護研究論文 クリティイーク クリティイーク基準</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・量的な看護研究論文のクリティイークを実際にを行い、研究論文のクリティイーク（批判的な読み方）及びクリティカルシンキング（批判的思考）、論理的思考力を伸ばすための方策についてディスカッションする。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜紹介する。 <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料、文献を熟読する。 <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>1時間</p>
第6回	<p>研究論文のクリティイーク (2)</p> <p>【key words】</p> <p>質的研究 看護研究論文 クリティイーク クリティイーク基準</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質的な看護研究論文のクリティイークを実際にを行い、研究論文のクリティイーク（批判的な読み方）及びクリティカルシンキング（批判的思考）、論理的思考力を伸ばすための方策についてディスカッションする。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜紹介する。 <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料、文献を熟読する。 <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>1時間</p>
第7回	<p>研究論文のクリティイーク (3) 演習</p> <p>【key words】</p> <p>看護研究論文 クリティイーク</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の研究テーマに関連する論文（原著論文）のクリティイークを行う（発表準備）。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜紹介する。 <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料、文献を熟読する。 <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>1時間</p>
第8回	<p>研究論文のクリティイーク (4) 演習</p> <p>【key words】</p> <p>看護研究論文 クリティイーク</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の研究テーマに関連する論文（原著論文）のクリティイークを発表し、研究論文のクリティイーク（批判的な読み方）及びクリティカルシンキング（批判的思考）、論理的思考力を伸ばすための方策についてディスカッションする。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜紹介する。 <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料、文献を熟読する。 <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>1時間</p>
第9回	<p>看護研究方法：量的な研究の基礎 (1)</p> <p>【key words】</p> <p>量的研究 データの収集方法 調査方法 質問紙法</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・量的研究におけるデータの収集方法について解説する。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜紹介する。 <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料、文献を熟読する。 <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>1時間</p>
第10回	<p>看護研究方法：量的な研究の基礎 (2)</p> <p>【key words】</p>

	量的研究 データの分析方法 統計解析 【授業概要】
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・量的データの分析方法について解説する。 ・量的研究の特徴及び研究方法についてディスカッションする。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜紹介する。 <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料、文献を熟読する。 <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>1 時間</p>
第 1 1 回	看護研究方法：質的な研究の基礎（1） 【key words】
	質的研究 データの収集方法 面接法 観察・インタビュー 【授業概要】
第 1 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・質的研究におけるデータ収集方法について解説する。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜紹介する。 <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料、文献を熟読する。 <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>1 時間</p>
第 1 3 回	看護研究方法：質的な研究の基礎（2） 【key words】
	質的研究 分析方法 グラウンデットセオリー 事例研究 【授業概要】
第 1 4 回	<ul style="list-style-type: none"> ・質的データの分析方法について解説する。 ・質的研究の特徴及び研究方法についてディスカッションする。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜紹介する。 <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料、文献を熟読する。 <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>1 時間</p>
第 1 5 回	家族介入プログラム開発と評価（1） 【key words】
	家族介入プログラム プログラムの構築 研究プロセス 【授業概要】
第 1 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・家族介入プログラム開発研究のプロセスと研究計画について解説する。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜紹介する。 <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を熟読する。 <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>1 時間</p>
第 1 5 回	研究計画書の作成（1） 【key words】
	研究計画書 【授業概要】
第 1 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・各自、研究計画書の作成をする。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜紹介する。 <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料、文献を熟読する。研究計画書の作成をすすめる。 <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>1 時間</p>
第 1 6 回	研究計画書の作成（2） 【key words】
	研究計画書 【授業概要】

	<ul style="list-style-type: none"> 各自、研究計画書の作成をする。 <p>【教科書ページ・参考文献】 適宜紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・資料、文献を熟読する。研究計画書の作成をすすめる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第17回	<p>研究計画書の作成 (3) 【key words】</p> <p>研究計画書 【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自、研究計画書の作成をする。 <p>【教科書ページ・参考文献】 ・適宜紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・資料、文献を熟読する。研究計画書の作成をすすめる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第18回	<p>研究計画書の作成 (4) 【key words】</p> <p>研究計画書 【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自、研究計画書の作成をする。 <p>【教科書ページ・参考文献】 ・適宜紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・資料、文献を熟読する。研究計画書の作成をすすめる。プレゼンテーションの準備をする。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第19回	<p>研究計画書の作成 (5) 演習 【key words】</p> <p>研究計画書 プrezentation ディスカッション 【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究計画書のプレゼンテーションを行い、ディスカッションする。 <p>【教科書ページ・参考文献】 ・適宜紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・資料、文献を熟読する。研究計画書の作成をすすめる。プレゼンテーションの準備をする。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第20回	<p>研究計画書の作成 (6) 演習 【key words】</p> <p>研究計画書 プrezentation ディスカッション 【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究計画書のプレゼンテーションを行い、ディスカッションする。 <p>【教科書ページ・参考文献】 ・適宜紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・資料、文献を熟読する。研究計画書の作成をすすめる。プレゼンテーションの準備をする。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第21回	<p>地域包括ケアシステムの歴史と現在の社会的ニーズ① 【key words】</p> <p>地域包括ケアシステム 歴史 構築 【授業概要】</p> <p>地域包括ケアシステムの歴史と多様化する社会的ニーズの現状から求められる地域包括ケアシステムについて概説する。理想と考えるシステムについてディスカッションして地域包括ケアの必要性と課題を具現化する。 【教科書ページ・参考文献】 適宜紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料の熟読し自身の考えを明確にする 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第22回	<p>地域包括ケアシステムの歴史と現在の社会的ニーズ② 【key words】</p> <p>地域包括ケアシステム 歴史 構築 課題 【授業概要】</p> <p>地域包括ケアシステムの歴史と多様化する社会的ニーズの現状から求められる地域包括ケアシステムについて概説する。理想と考えるシステムについてディスカッションして地域包括ケアの必要性と課題を具現化する。 【教科書ページ・参考文献】 適宜紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

	<p>資料の熟読し自身の考えを明確にする 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>地域社会福祉の基本理念と地域包括ケアシステムの概念 【key words】 地域福祉 社会福祉 基本理念 地域包括ケアシステム 概念</p> <p>【授業概要】 地域包括ケアシステムの基本理念と地域福祉の考え方、地域生活を支える保健・医療・福祉サービスの役割を概説し、多職種協働の現状の課題についてディスカッションする。 【教科書ページ・参考文献】 適宜紹介する。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料の熟読し自身の考えを明確にする 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第23回	<p>地域包括ケアシステムにおける看護の役割意義 【key words】 地域包括ケアシステム 看護 役割</p> <p>【授業概要】 地域における保健・医療・福祉サービスと地域看護の活動、看護職の役割について概説する。在宅医療の視点から看護の役割機能についてディスカッションする。 【教科書ページ・参考文献】 適宜紹介する。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料の熟読し自身の考えを明確にする 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第24回	<p>精神看護学と地域包括ケアシステム① 【key words】 精神看護学 地域包括ケアシステム</p> <p>【授業概要】 精神医療と看護の歴史的背景と疾病特性について理解し、精神障がい者の地域移行支援の困難となる要因と課題についてディスカッションする。 【教科書ページ・参考文献】 適宜紹介する。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料の熟読し自身の考えを明確にする 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第25回	<p>精神看護学と地域包括ケアシステム② 【key words】 精神看護学 地域包括ケアシステム</p> <p>【授業概要】 精神障がい者のリカバリー概念から、保健・医療・福祉の連携と多様な精神疾患に対応できる医療体制、また、地域生活支援におけるアウトリーチ型の協働支援の在り方についてディスカッションする。 【教科書ページ・参考文献】 適宜紹介する。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料の熟読し自身の考えを明確にする 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第26回	<p>精神障害に対応した地域包括ケアシステムの構築プロセス① 【key words】 精神障がい者 地域包括ケアシステム 構築プロセス</p> <p>【授業概要】 精神障がい者がその人らしく生活できるための保健・医療・福祉の連携と現在注目されているアプローチ方法について概説する。多職種協働の在り方についてディスカッションする。 【教科書ページ・参考文献】 適宜紹介する。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料の熟読し自身の考えを明確にする 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第27回	<p>精神障害に対応した地域包括ケアシステムの構築プロセス② 【key words】 地域包括ケアシステム</p> <p>【授業概要】 精神障がい者がその人らしく生活できるための保健・医療・福祉の連携と現在注目されているアプローチ方法について概説する。多職種協働の在り方についてディスカッションする。 【教科書ページ・参考文献】 適宜紹介する。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料の熟読し自身の考えを明確にする 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第28回	<p>精神障害に対応した地域包括ケアシステムの構築プロセス③ 【key words】 地域包括ケアシステム</p> <p>【授業概要】 精神障がい者がその人らしく生活できるための保健・医療・福祉の連携と現在注目されているアプローチ方法について概説する。多職種協働の在り方についてディスカッションする。 【教科書ページ・参考文献】 適宜紹介する。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料の熟読し自身の考えを明確にする 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第29回	地域包括ケアシステムの実践（事例）

	<p>【key words】 地域包括ケアモデル 実践活動</p> <p>【授業概要】 精神障害や精神障がい者の現状を知り「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築を推進するドキュメンタリー映像を視聴し長期入院患者が地域で暮らしている実際から支援の在り方を考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 適宜紹介する。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料の熟読し自身の考えを明確にする</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第30回	<p>地域包括ケアモデル案の作成</p> <p>【key words】 地域包括ケアモデル 作成</p> <p>【授業概要】 関心のある対象を設定して、その人らしく地域生活ができる支援を構成しディスカッションする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 適宜紹介する。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料の熟読し自身の考えを明確にする</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
受講生への要望	事前に準備を十分にした上で講義に参加すること。
評価方法	授業時のレポート:80% プрезентーション:20%
テキスト・参考書	授業内で適宜指導する。

講義科目名称： ソーシャルワーク特論 I

授業コード：

英文科目名称： —

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
柳澤 充			
添付ファイル			

学修目標	ソーシャルワークで用いられる専門的な援助理論と方法を学び、実際に福祉現場で具現化出来るようになること。理論モデルに基づく対象把握と実践が行えるようにさせる。																														
講義の内容（基本的枠組）	個人・地域・組織の対象レベルにおいて、ソーシャルワークの実践モデルに基づいて、対象の統合的な理解・把握、アセスメントに関する力量の向上に資する講義と演習を行う。更に自身の実践の省察を行う。																														
授業計画	<table> <tr><td>第 1 回</td><td>イントロダクション</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>治療モデル・環境モデル・生活モデル</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>ストレングスモデル</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>心理的アプローチ</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>機能的アプローチ</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>問題解決アプローチ</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>危機介入アプローチ</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>行動変容アプローチ</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>エンパワメントアプローチ</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>組織におけるソーシャルワーク</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>組織におけるソーシャルワークに関する演習</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>チームアプローチ</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>地域におけるソーシャルワーク</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>地域におけるソーシャルワーク I</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>地域におけるソーシャルワーク II</td></tr> </table>	第 1 回	イントロダクション	第 2 回	治療モデル・環境モデル・生活モデル	第 3 回	ストレングスモデル	第 4 回	心理的アプローチ	第 5 回	機能的アプローチ	第 6 回	問題解決アプローチ	第 7 回	危機介入アプローチ	第 8 回	行動変容アプローチ	第 9 回	エンパワメントアプローチ	第 10 回	組織におけるソーシャルワーク	第 11 回	組織におけるソーシャルワークに関する演習	第 12 回	チームアプローチ	第 13 回	地域におけるソーシャルワーク	第 14 回	地域におけるソーシャルワーク I	第 15 回	地域におけるソーシャルワーク II
第 1 回	イントロダクション																														
第 2 回	治療モデル・環境モデル・生活モデル																														
第 3 回	ストレングスモデル																														
第 4 回	心理的アプローチ																														
第 5 回	機能的アプローチ																														
第 6 回	問題解決アプローチ																														
第 7 回	危機介入アプローチ																														
第 8 回	行動変容アプローチ																														
第 9 回	エンパワメントアプローチ																														
第 10 回	組織におけるソーシャルワーク																														
第 11 回	組織におけるソーシャルワークに関する演習																														
第 12 回	チームアプローチ																														
第 13 回	地域におけるソーシャルワーク																														
第 14 回	地域におけるソーシャルワーク I																														
第 15 回	地域におけるソーシャルワーク II																														
受講生への要望	課題等について可能な限り議論を行うので、主体的に授業に参加することを望む。																														
評価方法	主体性を持ち新たな視点で積極的に授業に取り組んでいるかで50%評価。 課題レポート内容で50%評価を基本とする。																														
テキスト・参考書	基本教材として必要に応じてプリントを配布する。 参考図書は授業において紹介する。																														

講義科目名称： ソーシャルワーク特論Ⅱ

授業コード：

英文科目名称： 一

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
真下 潔			
添付ファイル			

学修目標	1. ソーシャルワークについて学んだ理論等をスキルに結びつける。 2. 事例研究（児童福祉）を中心にソーシャルワークの多様性を理解する。 3. ソーシャルワークの実践モデルを研究活動に活かす。 4. 他職種との連携と協働を理解する。																												
講義の内容（基本的枠組）	1. ソーシャルワークの実践的モデルの分析と展開 2. ソーシャルワークの事例研究（児童福祉） 3. 家庭支援の実際（現代の家族の変容） 4. 多職種連携																												
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>イントロダクション・ジョイニング <講義概要> 科目オリエンテーション、院生自身の専門性の紹介等 事例検討についての説明等</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>テーマの設定と設計 <講義概要> 事例検討に係る進め方等のルール設定</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>多職種連携と協働 <key words> 支援に係るケース診断、多職種連携、処遇方針、協働 <講義概要> 問題に対する社会学的、心理学的、医学的等診断から処遇方針を立てるプロセスについて概観する。 処遇（対応）に当たっての多職種連携、協働を考える。</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>事例研究 <講義概要> 事例検討</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>相談者への対応 <key words> ジエノグラム、エコマップ、生育歴、家族ダイナミックス、家族支援 <講義概要> 問題の理解のための情報分析のプロセスと支援の視点（家族）を見ていく</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>事例研究 <講義概要> 事例検討</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>ケースワークの仕組み <key words> 家族療法、家族再統合、要保護児童対策地域協議会 <講義概要> 法的（ソーシャルワークの根拠法）根拠の中でのワークの仕組みを見ていく。</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>事例研究 <講義概要> 事例検討</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>相談者の環境の特性 <key words> 相談者の家族特性、家族間のソシオメトリー、 <講義概要> 現代社会における、相談者や家族の特性を「相談」という視点から見ていく</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>事例研究 <講義概要> 事例検討</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>親と子を取り巻く社会の状況 <講義概要> 現代社会における児童を取り巻く状況を、将来への課題として捉えながら見ていく。</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>事例研究 <講義概要> 事例検討</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>「家族」を考える <講義概要> 社会における「集団」としての家族をどう支えていくかを検討する。</td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>事例研究 <講義概要> 事例検討</td> </tr> </table>	第 1 回	イントロダクション・ジョイニング <講義概要> 科目オリエンテーション、院生自身の専門性の紹介等 事例検討についての説明等	第 2 回	テーマの設定と設計 <講義概要> 事例検討に係る進め方等のルール設定	第 3 回	多職種連携と協働 <key words> 支援に係るケース診断、多職種連携、処遇方針、協働 <講義概要> 問題に対する社会学的、心理学的、医学的等診断から処遇方針を立てるプロセスについて概観する。 処遇（対応）に当たっての多職種連携、協働を考える。	第 4 回	事例研究 <講義概要> 事例検討	第 5 回	相談者への対応 <key words> ジエノグラム、エコマップ、生育歴、家族ダイナミックス、家族支援 <講義概要> 問題の理解のための情報分析のプロセスと支援の視点（家族）を見ていく	第 6 回	事例研究 <講義概要> 事例検討	第 7 回	ケースワークの仕組み <key words> 家族療法、家族再統合、要保護児童対策地域協議会 <講義概要> 法的（ソーシャルワークの根拠法）根拠の中でのワークの仕組みを見ていく。	第 8 回	事例研究 <講義概要> 事例検討	第 9 回	相談者の環境の特性 <key words> 相談者の家族特性、家族間のソシオメトリー、 <講義概要> 現代社会における、相談者や家族の特性を「相談」という視点から見ていく	第 10 回	事例研究 <講義概要> 事例検討	第 11 回	親と子を取り巻く社会の状況 <講義概要> 現代社会における児童を取り巻く状況を、将来への課題として捉えながら見ていく。	第 12 回	事例研究 <講義概要> 事例検討	第 13 回	「家族」を考える <講義概要> 社会における「集団」としての家族をどう支えていくかを検討する。	第 14 回	事例研究 <講義概要> 事例検討
第 1 回	イントロダクション・ジョイニング <講義概要> 科目オリエンテーション、院生自身の専門性の紹介等 事例検討についての説明等																												
第 2 回	テーマの設定と設計 <講義概要> 事例検討に係る進め方等のルール設定																												
第 3 回	多職種連携と協働 <key words> 支援に係るケース診断、多職種連携、処遇方針、協働 <講義概要> 問題に対する社会学的、心理学的、医学的等診断から処遇方針を立てるプロセスについて概観する。 処遇（対応）に当たっての多職種連携、協働を考える。																												
第 4 回	事例研究 <講義概要> 事例検討																												
第 5 回	相談者への対応 <key words> ジエノグラム、エコマップ、生育歴、家族ダイナミックス、家族支援 <講義概要> 問題の理解のための情報分析のプロセスと支援の視点（家族）を見ていく																												
第 6 回	事例研究 <講義概要> 事例検討																												
第 7 回	ケースワークの仕組み <key words> 家族療法、家族再統合、要保護児童対策地域協議会 <講義概要> 法的（ソーシャルワークの根拠法）根拠の中でのワークの仕組みを見ていく。																												
第 8 回	事例研究 <講義概要> 事例検討																												
第 9 回	相談者の環境の特性 <key words> 相談者の家族特性、家族間のソシオメトリー、 <講義概要> 現代社会における、相談者や家族の特性を「相談」という視点から見ていく																												
第 10 回	事例研究 <講義概要> 事例検討																												
第 11 回	親と子を取り巻く社会の状況 <講義概要> 現代社会における児童を取り巻く状況を、将来への課題として捉えながら見ていく。																												
第 12 回	事例研究 <講義概要> 事例検討																												
第 13 回	「家族」を考える <講義概要> 社会における「集団」としての家族をどう支えていくかを検討する。																												
第 14 回	事例研究 <講義概要> 事例検討																												

	第15回 授業の総括 <講義概要> まとめ 質疑応答
受講生への要望	積極的な意見発言を望む。そのために、課題に沿った文献をリストアップし、読めるようにすること。
評価方法	1. 授業への積極的参加と発言等取り組み30% 2.. レポート70%
テキスト・参考書	テキストは特になし。講義のなかで補完していく。 これまでのテキストを活用したい。

講義科目名称： ソーシャルワーク研究・演習

授業コード：

英文科目名称： 一

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2年次	2	選択
担当教員			
柳澤 充			
添付ファイル			

学修目標	1ソーシャルワーク特論で学んだことをさらに広く深く学ぶ。 2ソーシャルワーク研究方法についてさらに広く深く学ぶ。 3ソーシャルワーク研究に関する論文の読解と研究。																																												
講義の内容（基本的枠組）	ソーシャルワーク特論、ソーシャルワーク研究方法で学ぶ内容を深く理解するために、ソーシャルワーク研究に関わる文献、各自の関心に応じた関係文献を読み研究する。																																												
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>イントロダクション(研究テーマと研究方法)</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>ソーシャルワークの基盤と専門職</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>ソーシャルワークの理論と方法</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>ソーシャルワークの研究課題と評価</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>地域を基盤としたソーシャルワーク</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>個と地域の一体的支援</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>ネットワークの活用とソーシャルワーク</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>事例研究</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>レポートによる発表、討議等</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>事例研究</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>レポートによる発表、討議等</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>事例研究</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>レポートによる発表、討議等</td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>事例研究</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>レポートによる発表、討議等</td> </tr> <tr> <td>第 16 回</td> <td>事例研究</td> </tr> <tr> <td>第 17 回</td> <td>レポートによる発表、討議等</td> </tr> <tr> <td>第 18 回</td> <td>事例研究</td> </tr> <tr> <td>第 19 回</td> <td>レポートによる発表、討議等</td> </tr> <tr> <td>第 20 回</td> <td>事例研究</td> </tr> <tr> <td>第 21 回</td> <td>レポートによる発表、討議等</td> </tr> <tr> <td>第 22 回</td> <td>事例研究</td> </tr> </table>	第 1 回	イントロダクション(研究テーマと研究方法)	第 2 回	ソーシャルワークの基盤と専門職	第 3 回	ソーシャルワークの理論と方法	第 4 回	ソーシャルワークの研究課題と評価	第 5 回	地域を基盤としたソーシャルワーク	第 6 回	個と地域の一体的支援	第 7 回	ネットワークの活用とソーシャルワーク	第 8 回	事例研究	第 9 回	レポートによる発表、討議等	第 10 回	事例研究	第 11 回	レポートによる発表、討議等	第 12 回	事例研究	第 13 回	レポートによる発表、討議等	第 14 回	事例研究	第 15 回	レポートによる発表、討議等	第 16 回	事例研究	第 17 回	レポートによる発表、討議等	第 18 回	事例研究	第 19 回	レポートによる発表、討議等	第 20 回	事例研究	第 21 回	レポートによる発表、討議等	第 22 回	事例研究
第 1 回	イントロダクション(研究テーマと研究方法)																																												
第 2 回	ソーシャルワークの基盤と専門職																																												
第 3 回	ソーシャルワークの理論と方法																																												
第 4 回	ソーシャルワークの研究課題と評価																																												
第 5 回	地域を基盤としたソーシャルワーク																																												
第 6 回	個と地域の一体的支援																																												
第 7 回	ネットワークの活用とソーシャルワーク																																												
第 8 回	事例研究																																												
第 9 回	レポートによる発表、討議等																																												
第 10 回	事例研究																																												
第 11 回	レポートによる発表、討議等																																												
第 12 回	事例研究																																												
第 13 回	レポートによる発表、討議等																																												
第 14 回	事例研究																																												
第 15 回	レポートによる発表、討議等																																												
第 16 回	事例研究																																												
第 17 回	レポートによる発表、討議等																																												
第 18 回	事例研究																																												
第 19 回	レポートによる発表、討議等																																												
第 20 回	事例研究																																												
第 21 回	レポートによる発表、討議等																																												
第 22 回	事例研究																																												

	第23回 レポートによる発表、討議等
	第24回 事例研究
	第25回 レポートによる発表、討議等
	第26回 事例研究
	第27回 レポートによる発表、討議等
	第28回 事例研究
	第29回 レポートによる発表、討議等
	第30回 自由討議・まとめ
受講生への要望	この授業は、ゼミ形式で進めるので、十分事前準備をして授業に出席すること。 事例については、高齢者、障害者、児童、災害、権利擁護、地域福祉、生活困窮、多機関・多職種連携等から受講生の関心及び研究テーマ等により協議しながら進める。
評価方法	プレゼン30%、授業内での発言20%、レポート50%で総合的に評価する。
テキスト・参考書	基本教材として、必要に応じてプリントを配布する。 参考図書は授業において紹介する。 各自が報告する論文等は各自で用意する。